

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 40

2019年4月発行

冬季企画展「昔のくらしシリーズ」
食の道具～酒器、大集合～

特集 開館10周年＆だより40号記念
いつの間にやら、10周年！



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十四)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

企画展 安中新田会所跡 旧植田家住宅 **開館10周年記念展示**

10年分の企画展！

前期 5月17日(金) ~ 7月1日(月)
六曲一風の「結文屏風」ほか、名品・珍品の数々を展示。
※会期中、主屋(常設)にて往時の植田家を再現する展示も予定。

後期 7月4日(木) ~ 9月1日(日)
幕末・明治をはじめ有名な書画や工芸品を多数展示。

安中新田会所跡 旧植田家住宅

開館10周年

2019年5月6日で開館10周年を迎えます。

イベント

●4/27(土)~5/12(日) 企画展
旧家で記念撮影~こどもの日~
植田半角(4/27)をきて、五月人形の前で写真撮影ができます。

●6/8(土) 開館10周年6月尾勢開業130周年記念
市内鉄道まちあるき~八尾・志紀駅周辺をぶらり~
JR八尾~志紀駅までの路線に沿って旧大和川跡や旧道をたどるまちあるき。
○9:00~12:00 半角(300円/保護代別) 半角(200円/半角込) 半角(170~180円)

●6/15(土) 開館10周年記念
旧家でコンサート~帰ってきたエンド・パッパ~
チェロとチェンバロによるコンサート「エンド・パッパ」が7年ぶりに帰ってくる。
○半角(300円/保護代別) 半角(200円/半角込) 半角(170~180円)
○半角(1,750円/保護代別)

5/25(土) 記念講演会 14:00~16:00(要予約)
“植田家”から“旧植田家住宅”へ
旧植田家住宅が文化財として公開されるまでの植田家について元住人の植田光直氏にお話をいただきます。
○半角(座敷1(親子別) 半角(200円/半角込) 半角(50円/半角込)

ほかにも...
・旧植田家住宅オリジナル「手ぬぐい」を販売
・「リピーターカード」を無料配布中
お申し込み・お問い合わせ TEL: 072-992-5311
Eメール: info@kyo-sensokujutaku.jp

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-15 <http://kyo-sensokujutaku.jp/>
【開館時間】9:00~17:00(入館は16:30まで) 【入館料】一般250円、高校生・大学生120円、中学生以下は無料

企画展「開館10周年記念展示」

前期 2019年5月17日(金)~7月1日(月)

後期 2019年7月 4日(木)~9月1日(日)

前・後期にわたって開館10周年を記念した特別な展示を行ないます。

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 冬季企画展「昔のくらしシリーズ」
食の道具～酒器、大集合～
- 6 こどものためのお茶会
& ギャラリー展示2018
- 7 旧家で芸能・伝統文化～落語の会～
- 8 特集 開館 10 周年&だより 40 号記念
いつの間にやら、10周年!
- 10 講座「八尾の生活文化について」
- 11 四会所だより(20)-鴻池新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ④
- 13 植ちょピ(ひなまつり、手習い所)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十四)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

旧植田家住宅・神舎 (お稲荷さんと40匹の狐)

今年5月6日で安中新田会所跡旧植田家住宅は開館10周年を迎える。開館当初より施設を見守る神舎のお稲荷さんと40匹の狐。「旧植田家だより」も今回で40号となる。これまでのあゆみは8.9頁を参照。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



七ツ重ね朱盃 (七福神)

酒器、大集合!

しゅきッ、
好ゆき♪



大津絵「酒呑み猿」(部分)



徳利・銚子



酒瓶各種



蘭引

- 冬季企画展 -

昔のくらしシリーズ:

しょく

食

の道具

平成31年(2019) 1月5日(土) - 3月11日(月)

記念の盃いろいろ



記念盃・酒注

徳利

猪口

盃

銚子

燗器

...

酒器、酒器...



各種盃・猪口

冬季企画展「昔のくらしシリーズ」

食の道具・酒器、大集合

新年最初の企画展は、「昔のくらしシリーズ」から「食」の道具を取り上げました。今も昔も私たちのくらしにとって必要な「衣食住」の中でも食はもともと身近で多様であり、旧植田家住宅にのこる民具の中でも、大半を占めるのはこの食の道具といつてよいほどです。

一口に「食の道具」といっても、食料の調達から調理、盛付け、飲食、運び出し、保存に至るまで様々なものが含まれ、また同じ用途の道具であっても季節や場所、人などによってその種類は無数にあります。今回は身近でありながらも徐々に形を変えつつある「お酒」をテーマに、あらゆる酒器の展示を行いました。

さて、酒器といえは盃(杯)、徳利、銚子、猪口などが現在でも使われ、イメージがつかますが、盃洗(はいせん)や蘭引(らんびき)、提重(ていじゆう)といえはあまりピンとこないものもあります。また年中行事や特定の場面のみで使われるものや、いわゆる書画や意匠(デザイン)の世界にもお酒は登場します。今回の企画展では、お酒を「見る・買う・温める・入れる・飲む・運ぶ・祝う・洗う」の8つのテーマに分類し、さらにデザインと用途について解説を行な



大津絵・瓢箪

絵にみるお酒



大津絵「酒呑み奴」(部分)



金時絵提げ重

ハレの日のお酒



浮世絵(養老)



あしもとゆらゆら、ぐらぐら
「ひょうたんバランスげ〜む」



盃台・七ツ重ね朱盃

洗う〜酌み交わす〜



盃洗各種

温める〜燗する〜



酒燗器



酒燗器・タンポ(チロリ)

いました。

まずは見るお酒として展示したのは「養老」と書かれた朱盃と「養老伝説」を描いた浮世絵。新元号の祝いの意味も込めました。また、お酒の飲み過ぎを戒めた大津絵(四種)と、そこにみられる瓢箪(酒器)を、オリジナルの「ひょうたんバランスげ〜む」と一緒に展示しました。

次に買うでは、貧乏徳利ほか常設の各種酒瓶に加えて、デザインの異なる保命酒の角瓶を複数展示。温めるは、野外でも燗したお酒が楽しめる酒燗器を2種類。入れる・飲むでは趣向の凝らした徳利と銚子や、盃は実用の数物と記念品、鑑賞用に近い一点ものに分け、猪口とまとめて展示しました。

運ぶ・祝う酒器はちょっと贅沢に蒔絵を施した漆器と初公開の資料を含めて展示し、異質なテーマの洗うでは、今や見ることも使うこともほとんどない盃洗を展示し、なんともにぎやかな「酒器・大集合!」の企画展となりました。

「お酒」だけを取り上げても、これほど豊富な食の道具については、今後もしばらくネタに困りそうにありません。来年予定の「住」の道具展もぜひご覧ください。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)



最年少のお客さん! 親子で一緒に。

こどものための お茶会

2019.1.20(日)

&

ギャラリー展示 2018

2019.1.5(土)-31(木)



上手なお茶を点てられるかな?



◎こどものためのお茶会

2019年最初のイベントは「こどものためのお茶会」を実施しました。対象年齢は4歳以上中学生以下のため、保護者同伴の場合があり、親子で参加できるお茶会としても毎年喜ばれています。

今年は昨年よりも参加者が多く、最年少の4歳の子どもはお母さんと一緒にお点前を体験しました。また着物を来て参加をしてくれた子どももあり、座敷で行うお茶会の雰囲気とともにマッチしていました。

旧植田家住宅の常連になっている子どもたちも何人か参加し、いつもとは少し違った様子の中で、緊張感たつぷりにお茶を楽しむことができました。普段なかなか経験できない貴重な時間を過ごしてくれたことと思います。



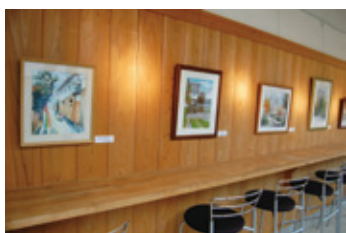
けっこうなお点前で。

◎ギャラリー展示2018

展示室に隣接するギャラリーでは、今回応募のあった8名の方々の作品を、1月の「ギャラリー展示2018」期間中に展示しました。開館当初から形を変えながら毎年実施している本企画では、「新旧大和川と新田会所の風景」をテーマに様々な作品を募集し、今では常連となつて毎年出展してくださる方もいます。

展示期間中は、普段来館者の休憩スペースになつている場所ということもあり、多くの人の目をひきつけ、時には出展者によるギャラリートークが始まつたりということもあります。また参加者同士の交流を深める場にもなり、旧大和川と新田会所が持つ役割がいまなお大きい事が伺えます。

(スタッフ)





八軒家裕次郎「胴乱の幸助」



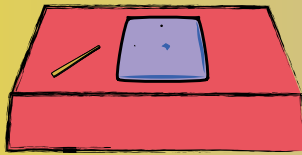
紅梅亭玉美「狸の鯉」



天神亭 醉千「高津の富」



八軒家 一蔵「千早振る」



平成31年(2019) 2月9日(土)

出演:素人寄席 天満天神の会

屏風を新調!

旧家で芸能・伝統文化 落語の会



旧家で芸能・伝統文化
落語の会

寒い冬を温かな笑いで包む「旧家で芸能・伝統文化」落語の会」を2月9日(土)に開催しました。初出演の方を含め今年も天満天神の会より四人の演者さんにお越しいただき、それぞれ熱のこもった演技を披露されました。

いつもと違うのは、演者さんだけにあらず、今年は高座と金屏風もリニューアルし、より豪華な装いに。演目は子どもから大人まで楽しめる内容で、八軒家裕次郎さんのそそっかしい「胴乱の幸助」に、紅梅亭玉美さんの愛くるしい「狸の鯉」、歌の講釈が笑いを誘う八軒家一蔵さんの「千早振る」、そしてトリを務める天神亭醉千さんの迫真の「高津の富」と、それぞれが登場人物になりきって、見事に演じられました。個人的には醉千さんの「含み笑いのような高笑い」が何とも心地よくツボでした。

運営スタッフながらも、座敷の雰囲気と相まって、心も体もほかばかした想いで観ることのできた落語の会でした。

(旧植田家住宅スタッフ)

特集「開館10周年&だより40号記念」

安中新田会所跡旧植田家住宅は、今年5月6日で開館10周年を迎えます。いつの間にやら10周年で、さらに開館以来発行を続けている「旧植田家だより」も今回で、キリ良く40号となりました。

2014年20号では「だよりのあゆみ」と題して特集記事を組みましたが、あれから5年、同じだけ号数が進み、同じペースを保ち続けています。今回はこの5年間の変遷を、「植田家田だより40号までのあゆみ（左頁）」とともに紹介したいと思います。

【会所だよりスタート第21号】

2014年21号より、鴻池新田、加賀屋新田の三会所の情報を発信する「三会所だより」がスタートしました。29号の第9回からは平野屋新田も加わり、こちらもいつの間やら「四会所だより」となっています。

また21号では、「なにわの伝統野菜栽培日記」のレシピが4年ぶりに復活し、その後23号にも掲載されました。ちなみに畑担当こと筆者の「釜バア」はこの回より「レディーKaMa」に改名しています。

特集 開館10周年&だより40号記念

いつの間にやら、10周年！

いつの間にやら…

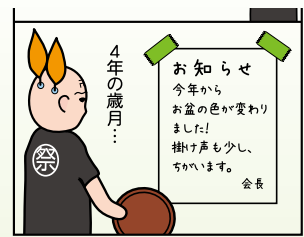


開館前(2009)整備中



台風後、造り直された南門(2018)

2014年(第21号)から
4年後、マンジーくんは
一体何が!?…



第37号(2018)「マンジーくん」より

【第26号「現在」

とくに大きな進化も変化もなく現在まで続く「旧植田家だより」ですが、毎回印刷をお願いしている株式会社シーズクリエイトの連載コラム(裏表紙)が2016年の27号で終了し、現在まで固定の記事(広告)となっています。今後また復活を期待しています。が「本当の幸せって? 本当の豊かさとは?」という問い掛けは、この文化財施設や冊子の意義とも合致し、変わらずにその答えを探っていきたいと思います。

【旧植田家住宅のこと〜今後】

5年間の重大ニュースといえば、2017年に旧植田家住宅の3期目の指定管理者となり(32号参照)、2018年9月には入館者数が6万人を突破(HPで公表しました。また同年9月の台風21号の被害に遭った南門(裏門)が造り直され、今年は元号も新たに開館10周年を迎えます。

本施設では10周年記念と在庫整理を兼ねて「旧植田家だより」のBNを展示期間中に配架する予定です。ぜひ、この機会にご来館、ご一読いただければ幸いです。

(編集者)

植田家だより40号までのあゆみ



第1号 (2009.7)



第2号 (2009.10)



第3号 (2010.1)

カラー冊子版スタート→



第4号 (2010.4)



第5号 (2010.7)



第6号 (2010.10)

表紙リニューアル→



第7号 (2011.1)



第8号 (2011.4)



第9号 (2011.7)



第10号 (2011.10)



第11号 (2012.1)



第12号 (2012.4)



第13号 (2012.7)



第14号 (2012.10)



第15号 (2013.1)



第16号 (2013.4)



第17号 (2013.7)



第18号 (2013.10)



第19号 (2014.1)

←20号記念特集



第20号 (2014.4)



第21号 (2014.7)



第22号 (2014.10)



第23号 (2015.1)



第24号 (2015.4)



第25号 (2015.7)



第26号 (2015.10)



第27号 (2016.1)



第28号 (2016.4)



第29号 (2016.7)



第30号 (2016.10)



第31号 (2017.1)



第32号 (2017.4)



第33号 (2017.7)



第34号 (2017.10)



第35号 (2018.1)



第36号 (2018.4)



第37号 (2018.7)



第38号 (2018.10)



第39号 (2019.1)

講座 ”八尾の文化”

芸術文化→今東光作品に見る八尾市史→生活文化

八尾市制施行70周年

八尾市制施行70周年を記念して、八尾の文化について広く学ぶための講座。

八尾の生活文化 について

協力：八尾市教育委員会 文化財課 市史編集室



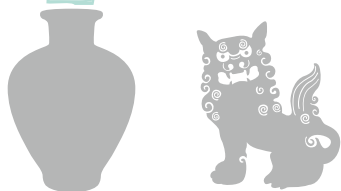
講座の様子



講師：市川秀之氏

滋賀県立大学人間文化学部教授
八尾市史編集委員・民俗部会長

2019年 3月17日(日)



講座「八尾の生活文化について」

本年度「八尾の文化」を学ぶ講座の第三回目は「八尾の生活文化について」と題して、滋賀県立大学教授で八尾市史編集委員の市川秀之氏にお話をいただいた。今回は民俗学のアプローチから、「町場と農村」「多彩な祭礼文化」「交流空間としての八尾」「変化する民俗」という四つの特色について、それぞれ詳しい解説と他地域との比較などから八尾の民俗を具体的に特徴づけられた。八尾に限らず、その土地に固有の文化というのは、環境や周辺地域との交流などによって形成されてきたもので、八尾においては大和川や生駒山などの自然環境が大きく影響するという。また独自の文化にはその地域と人々を結びつける要素があり、それは時代によって引き継がれ、あるいは変化していくものだということを最後に話された。

講座終了後には、今回ご協力をいただいた八尾市史編集室の上原室長からこれまで刊行した「市史」の紹介があり、今後に向けた取り組みや資料提供の呼びかけも行なった。5月以降に



新しい市史を紹介

刊行予定の新たな「市史」にも期待が寄せられる。

(旧植田家住宅 安藤亮)

四会所だより (20)

ツシ二題



使用人が逃げないように閉じ込めておくところ、という冗談まじりの風説をあちこちで聴きますが、今回はその物騒な屋根裏部屋のお話です。いずれも立ち入り禁止場所ですので悪しからず。

屋根裏部屋は伝統的には「ツシ」と呼ばれますが、鴻池新田会所では、本屋土間の屋根裏、高さ約5メートルのところに、梯子をかけて取り付くツシの出入り口をご覧になれます。ツシの床は屋根の構造（小屋組）に覆われていていわゆる「厨子二階」にはなっていないません。米俵などの材料となる稲ワラを蓄えていたようです。

ツシの構造は、土間とそれに続く畳部屋4つつ分、約60畳に広がっていますが、そのうち本屋の裏表を通した少し細長い24畳は、ワラ置き場とは壁で仕切られ、一つの屋根裏部屋になっています。以前の「たより」でお話したゲンカンと、その奥のチャ

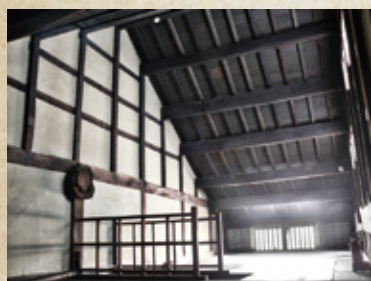


写真1 ゲンカン、チャノマの上のツシ

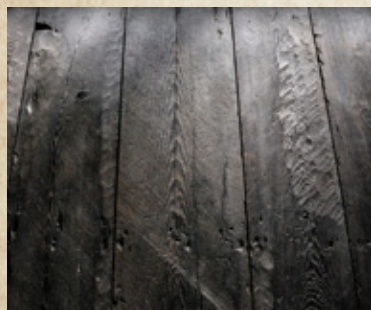


写真2 ツシの床板にみられる道具の痕



写真3 当初材を並べた裏長屋門の屋根裏

ノマの天井裏にあたります。このツシに上る階段は、チャノマの押入れと見せかけたその引き戸を開けると現れる、という意外な趣向で取り付けてあります。部屋の空間には小屋組みの部材はなく、広びろした印象的です（写真1）。北面の窓からの低い明かりで床板の凹凸をよく観察すると、大鋸や手斧の跡がわかり、簡素な道具で板を作っていた時代がしのべれます（写真2）。

裏長屋門の茅葺き屋根の中は、骨組み（^{さす}投首）を梁と天井板の上に載せた構造なので、三角テントのような空間です。

丸太、縄、茅の組み合わせがよくわかります（写真3）。ここには会所の解体修理で発見された三百年あまり前の会所創設

当時に使われていた部材（当初材）が保存されています。この記事のため、屋根裏にもぐりこんで写真を撮影しましたが、晴れた日の正午頃、他の屋根裏に比べて格段に暑く、汗が流れ出るほどでした。茅葺きは涼しい、というのは嘘かと一時疑いしましたが、暑いのは防火のため茅の上に銅板を葺いているためとも思えてきました。当初材保存に一考を要するところです。

これから2019年度春・夏の催しが続きます。詳細はホームページなどでご覧いただき、当会所にお越しくださるようお願い申し上げます。

（鴻池新田会所 松田順一郎）

<http://www.bunkazaitisetsu.or.jp>

なになの伝統野菜 栽培日記

No.40

【10周年!!】

※バチ※

※
思いおこせば、サボテンを枯らすことさえできる私が、前任スタッフの退職を機に担当を引き継いだのが6年前。それまでは助手Aとしてお手伝い程度だったのが、自ら野菜を育て、ましてやそれを子供たちに教えるようになるうとは…。

この10年間、たくさんの子供たちと保護者の方々が体験農園(畑企画)に参加して下さいました。何度タネをまいても芽が出なかつたり、やっと出たかと思えば一夜にして虫に喰われて軸だけになったり、と色々なエピソード、収穫してすぐに力マドで炊く豆ご飯や大根飯の美味しさ、真夏のスイカ割り等々、学年が上がって「卒園」するまで数年楽しんでくれた子もたくさんいました。

ありがたいことに今では希望者が多く、抽選での登録となっており、毎回ドタバタでんでこ舞いでとてもにぎやかです。

今回は、10周年ということで、畑の水やりに来てくれたメンバーと保護者の方が感想文を書いてくれたのを、了承を得て掲載しています。

わたしは、はたけを4年間やって、うれしかったこと、たのしかったことは、みんなやってきた一つ一つです。どうしてかという、一つ一つのことだけで、友じょうも高まったし、やさいもすきになれたからです。わたしはその一つ一つで今までやってきたことがたいせつに思えるようになりました。これからよろしくおねがいします。



一瀬 奏ちゃん

収穫した人参を手に畑メンバー集合!



四年前、たまたま植田邸の前を通りかかった時に「子ども農園」参加者募集を見たのがきっかけです。

小さな種が芽を出し、大根、とうもろこしなど収穫するまでの過程を子どもなりに体感してくれればと思っています。畑仕事の後の「お楽しみ」もいつも色々工夫していただきとても喜んでいます。ありがとうございます。最近では毎週日曜水やりにいくのが習慣になりました。畑で出会ったお友達とも仲良く交流する中で小さいお友達にやさしく声をかけたり、ゆずる気持ちも育ってきたように思います。「子ども農園」で、野菜と心の栄養もたっぷり育てていただいていると感謝しております。今後ともよろしくお願い致します。

バーバ

わたしは、はたけのみずやりをがんばっています。スタンプをあつめて、2いになったのがうれしかったです。じぶんでつくったやさい、おいしかったです。いつもありがとうございました。



池田 ゆいちゃん

よし、今年はカナブン素手でポイ!してみっか(笑)



マンジーくん

安富士 暁



3月3日の「雛祭り」を中心に旧植田家住宅の座敷では、七段飾りの豪華なお雛様を展示した。例年これを楽しみに多くの来館者が撮影に訪れるが、今年は特におひとり様から家族連れまで様々な来館者の姿があった。その様子を伺うと、自宅では飾れないことや、雛祭りの日に何かに記念になればと、検索したところ植田家住宅

◆2・3月イベント
「旧家で記念撮影しひなまつり」

2019年2月18日(月)～3月17日(日)

植ちよぴ(ックス)

「植田家住宅のちよつとしたトピックス」

話題

・連続体験講座「手習い所〜壺・式〜」
2019年2月23日(土)、3月23日(土)



お雛様に金の座布団が映える

がヒットしたなど、今時な事情が色々ある。お雛さんの飾り方にはいわゆる関西式と関東式の違いがあるが、今年は現代式でもある関東式で展示を行ない、来館者は思い思いに雛祭りを楽しんだ。



手習所(寺子屋)風の連続講座「手習い所〜壺〜」(ひらがな遊び)の様子

2月23日(土)と3月23日(土)は、連続体験講座「手習い所」を実施。小学3年生以上を対象に、江戸時代のからくり玩具や昭和の遊びについて、見て聞いて書いて作って学んでもらった。「壺」では江戸時代のからくり玩具「ずぼんぼ」を、「式」ではハガキ紙飛行機と数字合わせパズルを作り、紙と書くものがあれば工夫次第で十分に楽しむことができることを、体感した。本講座ではテーマを「遊」として、次年度も様々な遊びを発掘していく予定。

落穂拾い

― 今東光の薫風 ― (三十四)

文・伊東健

平成から新元号の令和へ改元されることが発表されました。大正から昭和へと元号が改まった時に、今東光はどんな人生を歩んでいたのだろうと、気になりました。

昭和元年というのは、大正十五年十二月二十六日から三十一日までのたった六日間しかありませんので、昭和二年の東光の動きを見ることになります。

すでに菊池寛との喧嘩により文藝春秋を去り、次いで新感覚派の川端や横光とも袂を分かち、新たなステージで東光は執筆活動に励んでいました。二月に「瘦せた花嫁」以来、二度目の単行本になる「愛染物語」を刊行しますし、五月には長編小説「愛経」を単行本化します。二十九歳を迎える東光は、女優の妻と新居を構えて四年が経過しようかという時期でもあり、一見、充実していたようにも見えます。

作品や文章の発表も文芸誌の枠に留まらず、婦人雑誌や映画雑誌にまで広がっていました。まさに流行作家として忙しい毎日を過ごしていたのだろうと想像できます。その年の七月二十四日に芥川龍之介が自殺をします。

芥川の自殺は、東光に大きな衝撃を与えました。後に、東光はその当時の心境を以下のように語っています。

芥川さんのお通夜の晩に、とにかくこれは菊池寛が大将でやるんだからね、おれが行っても、菊池寛は横向くんだよ。ほかの人には「あ、ご苦労さま」って言うのにな。菊池寛ににらまれるから、だあれもおれと話す人もいないしね、いづらいやな。焼香してすぐに帰るわけにもいかないから、おれ、ちよつとすわつていたんだ。(中略)

そうしたら、そこへ関西から谷崎潤一郎が来たんだな。そうなると菊池寛は、谷崎は先輩だし芥川も尊敬していたひとだから、自分で出迎えて、ご霊前まで案内してね。谷崎潤一郎が拜んで、帰りにヒョイと見たら

おれがいた。「帰ろう」と言ったよ。それで、おれ、谷崎の後ろからゆうゆうと、おのれらと格が違つよつて顔して帰ってきたけどな(笑い)。そのときに、おれ、ああ文壇でこんなものか、えらい親しくしていつしよに飯食った仲なのに「久しぶりだ」でもないし、菊池寛に遠慮してこんなにまでなるかと思つてあきらかえつたんですがね。ところが、それと同時に、こいつは死んじやだめだ、こんなこつちやだめだつて、また勇気がわいてきたな。(後略)

(『毒舌文壇史』昭和四十八(一九七三年)

六月十日徳間書店発行より)

通夜や葬儀の時に突きつけられる自らの孤独。そんな東光に声をかける師・谷崎潤一郎の労わり。さまざまな要素が絡む人生の一局面でした。

東光にとって人生の転機となる昭和がはじまりました。このわずか三年後の昭和五年に、東光は突然出家します。再び東光が表舞台に現れるのは、八尾市に転居してから話になります。

祝!開館10周年【2019年5月～7月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2019年

◎3月15日(金)～5月6日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

・4/24(水)～5/6(月) 開館10周年記念予告編(一部)

企画展「開館10周年記念展示」

◎5月17日(金)～7月1日(月):前期

◎7月4日(木)～9月1日(日):後期

◇5/18(土)・7/15(祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)

①13:30～ ②14:30～ 各20分程・同内容

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



企画

(詳しくはお問い合わせください)

5月 ☆4月27日(土)～5月12日(日)
旧家で記念撮影～こどもの日～

■25日(土) 開館10周年記念講演会
「植田家から旧植田家住宅へ」(講師:植田光彦氏)

□29日(水) ボランティアガイド養成講座①

6月 ■8日(土) 市内鉄道まちあるき～八尾・志紀駅間をぶらり～

■15日(土) 旧家でコンサート～帰ってきたエド・パツハ～(夜間開館)

□26日(水) ボランティアガイド養成講座②

7月 ☆7月13日(土)～9月8日(日) 納涼企画「冷やし旧家ははじめました」

■27日(土) こどもガイド体験講座(夏のくらし)

□31日(水) ボランティアガイド養成講座③



休館日カレンダー

■ = 休館日

■ = イベント開催日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 June

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 July

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休 館 日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入 館 料:一般250円(団体20人以上で120円)
高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)など

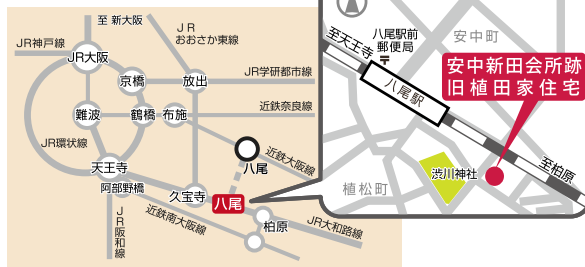
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

実施中「リピーターカード」



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

